



神奈川
県議
会議員
おの
でら
慎一
郎
しんいちろう



Asahi
Policy
Digest

月刊 おのでら慎一郎
2014年11月増刊号

ご感想をお聞かせください!
◎Mail: info@onodera-s.com
◎Fax: 045(442)8101
◎Tel: 045(442)8100
〒241-0821
横浜市旭区二俣川2-58-12 Sビル2F
http://www.onodera-s.com
https://www.facebook.com/shinichiro.onodera

医療・介護の難問の、答えを探し続けます。

おのでら慎一郎が今年度、委員長を務める厚生常任委員会は、神奈川県内の保健・医療・福祉をより良き方向に誘導し、将来のあるべき姿をさぐる役割を担っています。そのためには、先進事例の研究が欠かせません。8月の県外調査では、先端医療と予防検診、がん粒子線治療、在宅医療システムについて学びました。

先端医療の実用化、という共通目標。

九州大学先端医療イノベーションセンター

研究施設と診療施設を一体化した施設に、民間企業や大学から、医学と理工学など異なる分野の研究者を集めて臨床研究を行うことにより、医療現場が求める新しい医薬品、医療機器、医療技術を実用化・製品化するため、平成23年7月27日に開所。

患者への負担が少ない「低侵襲治療」を可能にする手術支援ロボットや、がんなどの治療薬を正確に患部に到達・蓄積させるドラッグデリバリーシステム、生体内での生命現象を分子や細胞レベルで画像化し、臓器の機能や病理の解明などに役立つ分子イメージング技術のほか、がん免疫細胞療法や幹細胞再生医療技術等について研究開発が進んでいます。



高石繁生先進細胞治療学研究所部門准教授、飯野忠史助教と。

日本では、世界第一級の医学・科学的研究がなかなか実用化に結びつかず、医薬品や医療機器については輸入超過状態が続いています。日本発の革新的な医薬品・医療機器等の創出により、健康長寿社会の実現と経済成長を同時に果たす「ライフイノベーション」の実現をめざす本県にとって、九州大学の取り組みは極めて貴重な参考事例といえるでしょう。

剖検(病理解剖を受ける)率80%の衝撃。

公益社団法人 久山生活習慣病研究所

福岡県久山町では1961(昭和36)年、九州大学医学部との共同で成人病健診事業が始まりました。以来50余年にわたる疫学研究によって得られたデータは世界に類を見ない精度を誇っています。

特定健康診査受診率70%。5年に1度、社保・国保双方の町民(40歳以上)を対象に行う生活習慣病予防一斉検診の受診率80%。健康な人も、そうでない人も健診を受けるので、より実



清原裕九州大学医学研究院教授のレクチャを受ける

態に近いデータが得られます。また、健診を受けた人がその後どんな病気にかかり、何が原因で亡くなったかを調査する追跡率が99%。さらには、亡くなった町民に対し病理解剖を行う剖検率が通算で80%というから驚きです。

確かなエビデンスに裏付けられた健康づくり活動により、久山町の脳卒中、心疾患、がんによる死亡率は全国より10~20年先行して低下しています。一方、糖尿病とその予備軍がアルツハイマー型認知症やがんの危険因子になっていることも追跡調査で明らかとなりました。神奈川県の健康寿命日本一を実現するには、やはり生活習慣病対策ですね。

重粒子線は強いぶんだけ難しい。

メディポリス がん粒子線治療研究センター

水素や炭素等の原子核を光速の約70%まで加速し患部に照射する粒子線治療。体の奥にあるがん病巣に致死的なダメージを与えながら、病巣前後の正常組織にはほとんど影響しないというメリットがあります。

粒子線治療には、陽子線治療と重粒子線(炭素線)治療があり、神奈川県では重粒子線治療施設(i-ROCK)が平成27年12月の治療開始をめざしています。



リゾートな装いの菱川センター長

鹿児島県指宿市にあるメディポリス がん粒子線治療研究センターは、グリーンピア指宿を再生利用した、日本で唯一のリゾート滞在型がん治療施設。菱川良夫センター長は、2001年に陽

子線、重粒子線の両方を備えた兵庫県立粒子線医療センターをつくり上げたのですが、指宿で使っているのは陽子線です。



▲回転ガントリー

陽子線は重粒子線と比べ設置費用が安く(といっても100億円前後)、回転ガントリー(照射装置)によって360°あらゆる角度から照射できるという利点があります。一方、重粒子線は、がん細胞を殺す力は陽子線の2~3倍と強いのですが、それゆえに扱いが難しいと菱川センター長は言います。「20年やっている放医研(放射線医学総合研究所)にできることが、なぜ神奈川でできないのかと急かしてはいけない」とクギを刺されました。

慢性期医療はキュアからケアに。

医療法人ナカノ会(鹿児島市)

理事長の中野一司医師いわく、「地域包括ケアは昨日今日出てきた言葉ではありません。何十年も前から(当時の)厚生省が言っていたのに、モデルとなるものがなかったのです」と。

1999年9月、自分自身が最期まで受けた医療をめざし、ナカノ在宅医療クリニックを開業。医療、介護関連の様々な職種が関わる地域連携ネットワーク型在宅医療システム(地域包括ケアシステム)の構築を進め、10年前に訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を併設しました。

「超高齢社会で増えるのは、病気よりも障がいであり、障がいは病院で治療(キュア)するより、地域でケアしていくほうがQOL(生活の質)も上がるし、お金もかからない。医療費を削減して介護に回せばいい」と語る中野理事長。定期的な訪問診療が在宅医療の中心ですが、24時間体制で往診や訪問看護にもあたっています。その延長線上に、老衰や末期がんで亡くなる患者の「看取り」も。「いよいよのときは、救急車ではなく僕を呼んでとってあります。在宅医が看取ったほうが社会的コストもかからないのです」。



希望あふれる未来へ、着々。

東日本大震災の約1か月後に行われた統一地方選挙。県民の皆さまの負託を受けた、おの でら 慎一郎、そして公明党県議団は、安心して暮らせる安全な神奈川県をめざし、着実に成 果を挙げさせてまいりました。ここでは、その部をご紹介いたします。

日本でいちばん、頭脳と技術が集まる 神奈川に。

■暮らしに役立つロボットの普及。

ロボット産業の振興により経済のエンジンを回し、県民福祉の向上を実現する。公明党の提案で、神奈川県介護・福祉ロボットの普及開発事業が始まり、さがみロボット産業特区(※1)の指定にもつながりました。最先端のロボットが介護負担の軽減やリハビリのサポートなどに役立っています。

■世界と勝負ができる拠点づくり。

京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区(※2)の政策推進では、世界各国の政策や市場の動向を把握し、創薬や知的財産管理のノウハウを持つFDA(米国食品医薬品局)との連携を提言。元FDA次官のジョン・ノリス氏を顧問として迎え、事業の海外展開や国際共同研究、高度専門人材の育成などを支援するGCC(グローバル・コラボレーション・センター)が設立されました。

(※1)国の地域活性化総合特別地域制度を活用し、生活支援ロボットの実用化や普及を促進するとともに、関連企業の集積を進めています。

(※2)総合特区は、「我が国の経済成長のエンジンとなる産業・機能の集積拠点の形成について先駆的取組を行う実現可能性の高い区域」として国が指定したもの。本特区では、グローバル企業が先導して医薬品・医療機器産業を活性化させ、国際競争力の向上、関連産業や中小企業等への波及効果を引き出し、経済成長とライフイノベーションの実現に向けた取組を推進しています。



災害、犯罪、事故…日々の不安に 耳を澄ます。

●大災害に備え、広域受援計画。

東日本大震災被災地での調査をもとに、平成25年2月議会で、緊急消防援助隊の受入体制など、支援を受けるための力=受援力の強化を訴えました。県は平成26年3月、警察や消防、自衛隊や他の自治体などからの応援を迅速かつ効率的に受け入れることができるよう、神奈川県災害時広域受援計画を策定しました。

●路面下の空洞を調査。

路面下の埋設物の破損や施工不良等が原因となって、道路の路面下に空洞が発生すると、地震等により道路が陥没することがあります。このような道路陥没を未然に防ぐために、県が管理する緊急輸送道路約600kmについて路面下空洞調査を実施しています。



路面下探査車

●自転車事故の防止に「チリリンデー」

自転車に関係する交通事故が増加の一途をたどる中、自転車通行のマナー向上のため、県警察は平成26年5月から毎月5日を「チリリンデー」と定め、県内全域において安全指導や安全教育を実施しています。注意喚起が中心ですが、悪質性、危険性の高い行為に対しては取締りも併せて行います。

●全県立高校でAED実習。全交番にAED配備。

教師も生徒もAED(心臓救命装置)を正しく扱えるよう、教職員向けの研修を充実させるとともに、AED実習をすべての県立高校の保健体育の授業に取り入れました。また、地域住民の皆様の要望を受け、交番などの警察施設にAEDを設置、県民の救命率の向上を図っています。

女性の産みたい、働きたいを応援します。

♥不妊・不育専門相談センターを設置。

妊娠はするものの、流産や死産、早期新生児死亡などを繰り返し、子どもを持ってない「不育症」について、県ホームページで医療機関情報を提供するとともに、茅ヶ崎市に神奈川県不妊・不育専門相談センターを開設しました。

♥保育士・保育所支援センターを開設。

新卒保育士はもとより、保育士の資格を持ちながら保育現場で働いていない「潜在保育士」の就職・復職に関する相談や、希望に合った仕事の紹介等を行う「かながわ保育士・保育所支援センター」を開設。保育人材の確保に向けた取組を強化しました。

「国民病」と、しっかり向き合う。

▼体にやさしいがん治療。

日本人の2人に1人が「がん」になる時代を見据え、県立がんセンターの再整備を推進。副作用の少ない「がんペプチドワクチン」の臨床研究と患者への提供を行う「がんワクチンセンター」や、身体の免疫作用を高め、抗がん剤の副作用を軽減するなどの効果が認められている「漢方」をがん治療に応用する「漢方サポートセンター」を新設しました。

▼子どものアレルギーに万全の対策。

学校や幼稚園、保育所、児童養護施設など、保育や教育現場におけるアレルギー対策を一貫して進めてきました。食物アレルギーによる「アナフィラキシーショック」への対応では、教職員の研修を徹底して進めたほか、自己注射薬「エピペン」の使用法も含めた「緊急対応マニュアル」を全公立小中高校に配布。救急との連携を含め、神奈川は全国屈指のアレルギー対策先進県になっています。



県立がんセンター

すべての子どもたちに、 等しく光のあたる教育。

★低所得世帯に返還不要の「奨学給付金」。

低所得世帯の高校生等の教育費負担を軽減するため、高等学校等就学支援金制度への所得制限導入により捻出する財源を活用して「奨学のための給付金」を創設(国庫補助率3分の1事業)。生活保護世帯と市町村民税所得割額非課税世帯が対象となります。

★入学準備に「短期臨時奨学金」。

これまで初回分の支給が5月下旬だった県の高校奨学金。制服や教科書代など入学前の費用が高額となるため、3月支給を望む声が寄せられていました。そこで、入学の前年度の支給を可能にする「短期臨時奨学金」を全国で初めて創設。3月に初回支給額相当分の12万円が受け取れることになりました。

★県立学校にエアコン整備。

体温調節が困難な子どもたちも在籍する県立養護学校には、平成23年度までにエアコン設置を完了。現在、27年度完了をめざし、すべての県立高校への設置を進めています。25年度には、節電やCO2排出量の削減に役立つ都市ガスを活用したシステムを45校に導入。環境にも配慮しています。



神奈川県議会議員

おのでら 慎一郎

▼昭和31(1956)年2月12日生まれ▼昭和54(1979)年、学習院大学文学部卒業後、平凡出版(現マガジンハウス)に入社。雑誌『ポパイ』『ブルータス』や書籍の編集に携わる。『ポパイ』第8代編集長▼平成15(2003)年、神奈川県議会議員に初当選。現在3期目▼防災警察委員長、商工労働委員長等を歴任。現在、厚生常任委員長。公明党県本部政策局長。

<http://www.onodera-s.com>